

令和4年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市中小企業・勤労者支援センター
施設の設置目的、役割	地域産業の振興のために必要な人材及び中小企業の育成並びに勤労者の労働環境の改善及び福利厚生を増進を支援する施設
施設の所在地	岡崎市羽根町字小豆坂 117 番地 3
施設規模	敷地面積：6,274.00 m ² 建物面積：1,959.61 m ²
指定管理者	名称：岡崎市中小企業・勤労者支援センター管理共同事業体 所在地：岡崎市羽根町字小豆坂 117 番地 3 代表者：公益財団法人岡崎幸田勤労者共済会 理事長 清水 康則
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

業務内容	実績
支援センターの保守管理に関する業務 建築物、建築設備、備品等の保守管理	自家用電気工作物保安管理・消防設備保守点検及び防火対象物点検・空気調和設備保守点検・フォークリフト保守点検・天井クレーン点検・建築物等定期点検業務については、専門知識や技術が必要なため業者委託をし、施設の利用状況と照らし合わせながら、保守点検等を安全に実施することができた。 建築物、建築設備については、指定管理者において建物自主点検チェックシートにより毎月点検し、不良箇所の早期発見に努めた。 備品等については、管理台帳により数量と状態の確認をした。
支援センターの環境維持管理業務 清掃業務、環境管理業務、植栽管理、保安警備業務、施設保全業務	警備業務については業者委託をし、防犯、火災監視サービスにより終日施設の安全確保を行っている。 清掃、植栽管理については業者委託をするとともに、管理者による清掃や敷地内の樹木の剪定を行い環境整備に努めた。 廃棄物についても業者委託をし、施設内の衛生環境を整えた。
施設の運営に関する業務 受付業務、産業人材の育成に資する職業訓練の実施に関する業務	施設予約システムが導入され2年目となり、電話予約からシステム予約に切り替えた利用者があった。 多目的実習棟の予約については電話受付、窓口受付のみとなっているが、定期的に利用している団体が多いためスムーズに予約受付ができています。 多目的実習棟の新規利用者については、月初の予約時に予約可能な単位がわかりにくいため、わかりやすい説明を心掛けた。 職業訓練に関する業務では、新規利用を希望する団体に対し、まずは施設見学を依頼し、持込品の確認や利用時間等の事前打ち合わせを行ったため、滞りなく実施することができた。
行政財産目的外使用（自動販売機設置）に係る業務	施設利用者の利便性向上のため本館棟に1台、多目的実習棟に1台自動販売機を設置している。季節商品の切替時期や販売商品については、気温や施設利用状況をみながら業者担当者と相談し施設利用者が快適に過ごすことができるようにした。 また、職員も自動販売機周辺の清潔を心掛けた。

(2) 事業実施に対する自己評価

基本協定書に基づき、岡崎市中小企業・勤労者支援センター業務仕様書及び施設設備の維持管理に関する法令に沿って事業を実施した。

保守管理に関する業務では、消防設備に関する指摘事項であった本館棟のロビー、廊下の非常照明器具の更新工事を早急に行い、災害発生時に備えた。消防消火栓ホース、一部の消火器についても安全で確実に使用できるよう取替を実施し、利用者の安全を最優先に計画に沿った修繕を実施した。

また今年度は岡崎技術工学院の実技授業の一環で、本館棟西出入口と倉庫出入口に段差解消のためのスロープを施工した。当施設はベビーカーでの来館や台車を使用した荷物の移動が多いが、スロープを設置したことでバリアフリー化もでき、利便性が向上した。日々不便な箇所を岡崎技術工学院と相談、協力して改善することができるのは大きな強みである。

施設環境維持管理業務では、管理者が随時草刈及び剪定を実施し環境維持に努めたが、急斜面の草刈と樹木剪定は業務委託で対応した。天候等のため実施時期が遅れてしまったが、短期間で効率的に実施することができた。なお今年度は多目的実習棟、本館棟周囲の一部に緑色の除草シートを敷設したことにより、雑草対策だけでなく以前の黒色防草シートと比較して明るい雰囲気になったことで施設のイメージアップにも繋がっている。

トイレ改修が完了し、本館棟内の多目的トイレにおむつ交換台や子ども用の座席が設置されたことにより、小さな子どもを連れた利用者からたいへん好評を得た。

新型コロナウイルス感染拡大防止策は引き続き行った。

施設の運営に関する業務では、予約システムが導入されて2年目となり予約受付から利用申請までスムーズに処理ができるようになってきている。利用者側も、年度途中で施設利用団体の担当者変更になっても団体内で十分引継説明がなされており、予約システムによる受付方法が確実に浸透してきていると感じている。

産業人材育成に資する職業訓練の実施については、今年度新たに2団体が技能検定試験会場として利用し、また、企業の講習、研修についても新たに5団体の利用があった。これらは岡崎技術工学院の関係団体や共済会の会員事業所の利用であり、地道なPRが施設利用に繋がったものと評価している。また講習の中で本館棟2階の渡り廊下の手すりを利用して安全講習の実技説明と実技体験をしたいとの相談を受けたが、安全面を確認して講習内容に組み込むことができたので、別会場に移動することなく、効率的に講習が実施できたと喜んでいただくことができた。

提案事業については、秋にはドローン操縦体験者 1,000 人を達成することができた。予定より早く目標を達成することができ、ドローンへの興味の高さがうかがえる結果となった。操縦体験をきっかけに、その後資格取得コースを受講し、操縦免許取得者が 100 人以上となったことは大きな成果ではあるが、初年度に比べドローン操縦体験者はかなり減少傾向にあるため、今年度はアンケート結果や受講生の声を参考に新たな取り組みとして「夜のドローン自主練習会」を実施した。またドローンの免許制について知りたいとの声を受け、ドローン免許制についての講習回数を増やしドローンの基礎知識から産業活用まで幅広い内容で講習会を実施した。また学校現場でのドローン利用に着目し、教員向けドローン体験教室も実施した。

先端技術セミナーとしては、中小企業のデジタル化促進に向けた講座を前年度に引き続き実施した。今年度は受講生がパソコンを使用したスタイルの実践的な講座を増やし、講師との質疑応答の時間も十分に取るなど、受講者の実際の職場環境に即応できることを主眼とした講座を開催することができた。ただ、先端技術セミナーの受講者数がなかなか伸びないのが実態である。リピート受講者を大切にしつつ、参加しやすいセミナー日程、テーマを模索し、受講者の増加に繋げていきたい。

先端技術セミナーでは、大人だけでなく未来を担う子ども達の人材育成にも目を向け、中高生を対象とした「岡崎デジタルリアン創出・育成事業」や小学生向けのプログラミング教室（SCRATHI を使って親子でエアホッケーを作ろう）を開催した。プログラミング教室に参加した親の声として「プログラミング学習に興味はあるが、何から始めていいかわからなかったのが役に立った」「公共施設でのプログラミング教室であったので、安心してプログラム学習に一步踏み込むことができた」とたいへん好評であった。今後も内容を変えながら継続して開催し、プログラミングの楽しさを子ども達が体験できる機会をつくっていきたい。

2 勤労者支援センター施設の利用状況

(1) 利用状況

＜利用件数累計表＞

区	分	件（件）	利用人員（人）	稼働率（％）
本館棟	第1教室	150	4,158	16.23
	第2教室	158	943	17.10
	第3教室	416	2,509	45.02
	第4教室	225	3,087	24.35
	第5教室	201	2,140	21.75
	本館棟計	1,150	12,837	24.89
専門実習棟	第1実習室	69	369	7.47
	第2実習室	69	430	7.47
	第3実習室	148	883	16.02
	専門実習棟計	286	1,682	10.32
多目的実習棟	多目的実習室	1,396	12,565	75.54
合	計	2,832	27,084	30.65

(2) 利用状況に対する自己評価

令和4年度の利用状況については、(1)の利用件数累計表のとおりである。

本館棟については、第1教室は主に陶芸講座などの利用、第2教室は岡崎技術工学院の認定訓練や先端技術セミナーによる利用、第3教室はパソコン講習や先端技術セミナーによる利用、第4・第5教室は職業訓練講習、先端技術セミナー利用である。

前年比では、利用件数は90件の増、利用人数は1,941人の増である。利用件数が増加した理由は新たに研修や技能検定講習が増加したため、利用人数が増加した理由は7月と2月に第1教室が選挙の投票会場として利用されたためである。

専門実習棟の第1、第2実習室は、岡崎技術工学院の認定職業訓練の夜間利用が主で、その他は岡崎技術工学院の実技試験による日中利用、組合団体の実技検定での利用である。第3実習室は木工教室、日曜大工教室の利用である。前年比、利用件数は57件の減、利用人数は132人の減である。今年度は岡崎技術工学院の時間割編成の結果により、件数と人数が減少となった。しかしながら、新たに石工の外国人技能実習生対象の技能検定の実技会場としての利用があった。施設利用に至るまでの施設案内や設備の説明等、岡崎技術工学院と

協力して十分な事前打ち合わせを行った結果、検定会場としての利用に繋げることができたと分析している。

多目的実習棟は、指定管理提案事業としてのドローン操縦体験及び卓球、バレーボール等のスポーツの団体による利用である。前年比、件数は266件の増、利用人員は1,627人の減となった。件数は、今年度より稼働率の算出に合わせ全面利用の場合は2件とカウントしている。稼働率は、前年度85.44%、今年度75.54%となり減少している。主な理由は、月の第2、第4週がドローン操縦体験週として貸出を行っていないので、これまで毎週1回利用してきた団体は当施設では月2回程度の利用しかできなくなってしまい、利用回数の減少を許容できない団体が今年度の秋頃から他の近隣施設に活動の場を移したことによるものである。従前からの利用団体は減少してしまっただが、施設の設置目的である中小企業の人材育成の場としての利用に繋げていくことに尽力していきたい。

3 勤労者支援センターの管理運営にかかる収支状況

(1) 収支状況

	項 目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入		29,475,826
	事業費収入		357,000
	便益施設に関する収入	自動販売機収入等	190,224
収 入 計			30,023,050
支 出	直接管理費	直接人件費、光熱水費、燃料費、役務費、手数料、修繕費、消耗品費、委託料、保険料等	24,578,433
	(うち修繕費)	AED取替、消火栓ホース、消火器取替、本館棟第1、4、5教室LED取替、本館棟1、2階非常照明器具取替等	(1,196,800)
	事業費	事業に係る経費	1,903,628
	その他	法人税・住民税及び事業税、本部経費、当期剰余金等	3,540,989
支 出 計			30,023,050
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

収入は、指定管理料収入、事業費収入、自動販売機等に関する収入である。

事業費収入は、ドローン操縦体験及び夜のドローン自主練習の参加費と先端技術講座の受講料である。ドローン操縦体験者が昨年よりかなり減少したため前年比34%となった。

自動販売機収入は、技能検定等で施設を利用する主催者が水分補給の飲み物を持参することが増えたための売上は伸びなかった。

指定管理料収入は修繕費が前年度より増額となったため前年比103%、収入合計では前年比100.4%となった。予算計画対比は89%であった。

支出については、直接管理費のうち直接人件費は、岡崎幸田勤労者共済会スタッフ4名分の人件費と夜間業務を担当している岡崎技術工学院の人件費である。限られた職員で、効率的な会館管理業務に努めた。

光熱水費は電気代等の値上げのため前年比122%となったが、節電に努め予定より支出を抑えることができた。

委託料は除草シートを敷設したため前年比151%となり、逆に消耗品は在庫管理を徹底し経費を抑えたため前年比24%となった。

修繕費は、施設の利用者の安全を第一に、優先順位を考慮しながら実施し、改修工事に対応できなかった本館棟の電気設備のLED化を行い、予算どおり執行できた。

直接管理費支出合計では前年比 113%、対予算計画比 86%となった。

事業費は、先端技術セミナーのチラシ作成や講師料、ドローンバッテリー代等である。新たに夜間自主練習を実施したことと広報活動に力を入れたため前年比 118%であった。予算計画対比 36%なので今後は予算を有効に執行できるよう事業の充実を図る必要がある。

その他の法人税・住民税及び事業税、本部経費、当期余剰金等は前年比 54%となった。

4 利用者アンケート結果

(1) 実施概要

実施期間	実施方法	回答者数
令和4年11月9日(水) ～ 令和5年3月10日(金)	アンケート用紙を配布し、記入後回収 多目的実習棟については利用団体で回答	141

(2) アンケート集計結果

アンケート調査の結果は別紙のとおりである。

<意見・要望等について> (任意書き込み)

- ・本館棟第4教室のスクリーンがもう少し大きいとありがたい。
- ・席からプロジェクターまでの距離が遠く見つらかった。
- ・椅子が硬かった。
- ・入場を8時15分にしてほしい。25分では慌ただしい。
- ・駐輪場の場所がわかりにくかった。
- ・高齢のため講習会場を1階の教室にしてほしい。
- ・教室の電源の修理がされていない。
- ・卓球台を増やしてほしい。更衣室もほしい。
- ・床が滑る。使用できる日を増やしてほしい。
- ・ウォシュレットの温度が低い。
- ・大工教室に備え付けの道具を開放してほしい。

(3) アンケート結果に対する自己評価

全体的には、どの項目もふつうの回答が多かったが、概ね満足していただいていると分析している。

「洗面所とトイレが改修されたことにより印象がよい」との回答が多くあった。

窓口受付職員の対応等については、ふつうの回答が多く、あまりよくないとの回答が4件あったので、職員間で情報共有し、全職員が親切、丁寧な対応ができるように改善していきたい。

多目的実習棟の利用者からは、前年度に引き続き、「床が滑りやすく危険なので改善してほしい」、「卓球台と卓球ネット、支柱を購入してほしい」と要望があった。この点については、岡崎市とも協議している。

未修理の教室の床の電気コンセントは切断した。

5 その他の自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

今年度、センターのホームページを充実し、ドローン操縦体験や先端技術セミナーの内容を詳細に情報発信した。ドローン操縦体験については今年度から空き状況の確認や申し込みもホームページからできるようにしたため利便性が向上した。

フェイスブックでリアルタイムで動画発信することで、イベント開催時に来場できないフォロワーに対し情報共有を図った。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

施設利用者からのアンケートにより利用者ニーズを把握しているが、現時点では対応が難しいことも多い。特に施設リニューアル前から多目的実習棟を利用していた団体は、利用回数が減少したことへの不満や床の修繕、卓球台やネットの新調を望む声が多い。

また階段を上がることを嫌う高齢者は1階での講座開催を望んでいるが、1階には講習向きの教室がないため要望に答えられない。これらの指定管理者だけでは対応できない要望については岡崎市とも協議し、改善できることについては改善していきたい。

提案事業については、アンケートから講習内容や講習時期、講習時間を検討し、より多くの参加に繋がるよう工夫している。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

当施設は、敷地外に第2、第3駐車場があるが、今年度第3駐車場と道路面との境に設置してある杭が近隣住民のごみ置き場に倒れているとの苦情があったため、早急に管理者が修理及び撤去をした。定期的に施設巡回を行い、不適切な箇所等は早めの対応をすべきであったと反省している。

また本館棟の冷房吹き出し口に結露が生じているとの苦情があったが、湿度が高い環境の場合にはこのような症状が生じやすく、根本的な改善ができないと判明した。冷房運転時は吹き出し口下の座席は利用しないよう表示をしているが、講習の定員にも影響が出る場合もあるので事前に講習主催者に説明すべきであった。